

共通語彙基盤  
2016年度実施状況と2017年度実施方針

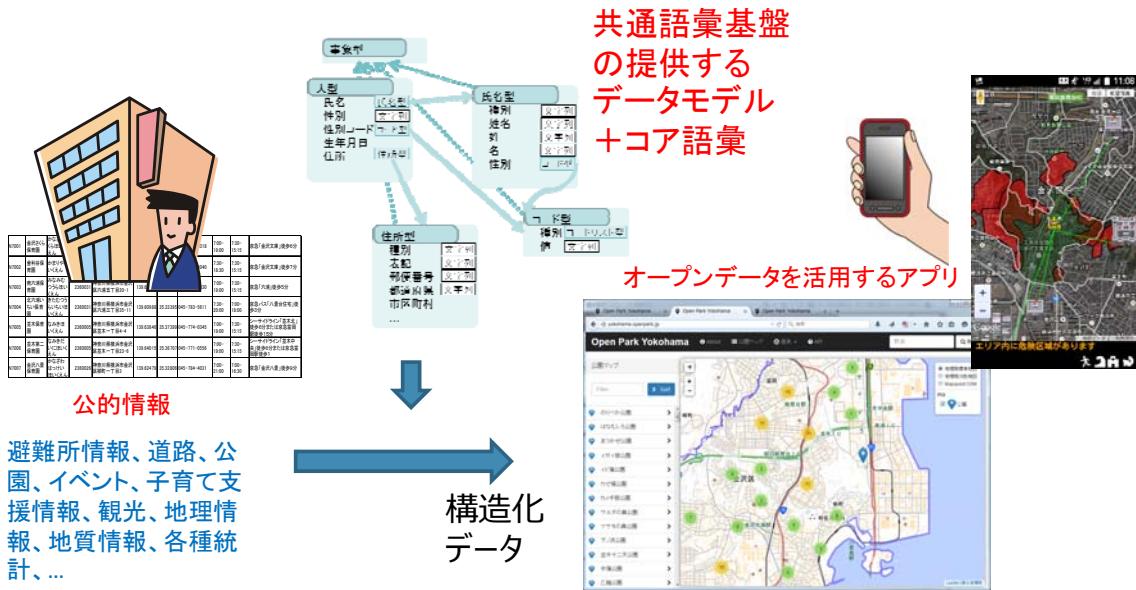
IPA 技術本部国際標準推進センター



共通語彙基盤 2016年度実施状況



## 公共データ + 共通語彙基盤 = オープンデータ



多様なアプリからのデータ活用

# 検討体制

## 共通語彙基盤ワーキンググループ(2016年度)

### 委員長

武田 英明 国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授

### 委員

越塚 登 東京大学大学院 情報学環 教授

坂下 哲也 一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)  
常務理事/電子情報利活用研究部 部長

菅又 久直 国連CEFACT日本委員会 サプライチェーン情報基盤研究会 事務局長

深見 嘉明 立教大学 大学院ビジネスデザイン研究科 特任准教授

武藤 俊一 一般財団法人 全国地域情報化推進協会 企画部 担当部長

### オブザーバ

内閣府 政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当)付

内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室

総務省情報流通行政局 情報流通振興課

総務省行政管理局 行政情報システム企画課

国立国会図書館 電子情報部

国土交通省 総合政策局情報政策課

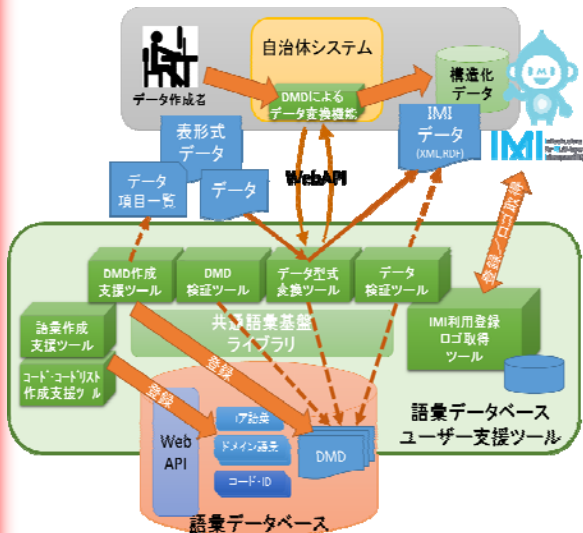
国土地理院 企画部

- データベースとツール
  - 開発に着手(2016年度)→2017年度運用開始
- 仕様の策定
  - コア語彙の検討と公開
  - DMD仕様の策定と公開
  - 構造化項目名記法の策定と公開
  - IMI語彙の定義記法を策定
- 情報公開
  - 手引き書類の整備と公開
  - 「公開ドラフト」の公開
  - DMDの公開
- 体制の構築
  - imi.go.jpサイトの運用を開始
  - IMIパートナー制度の運用を開始
- 普及啓発活動
  - セミナー（6月、2017年2月）、アイディアソン（11月）

## データベースとツール

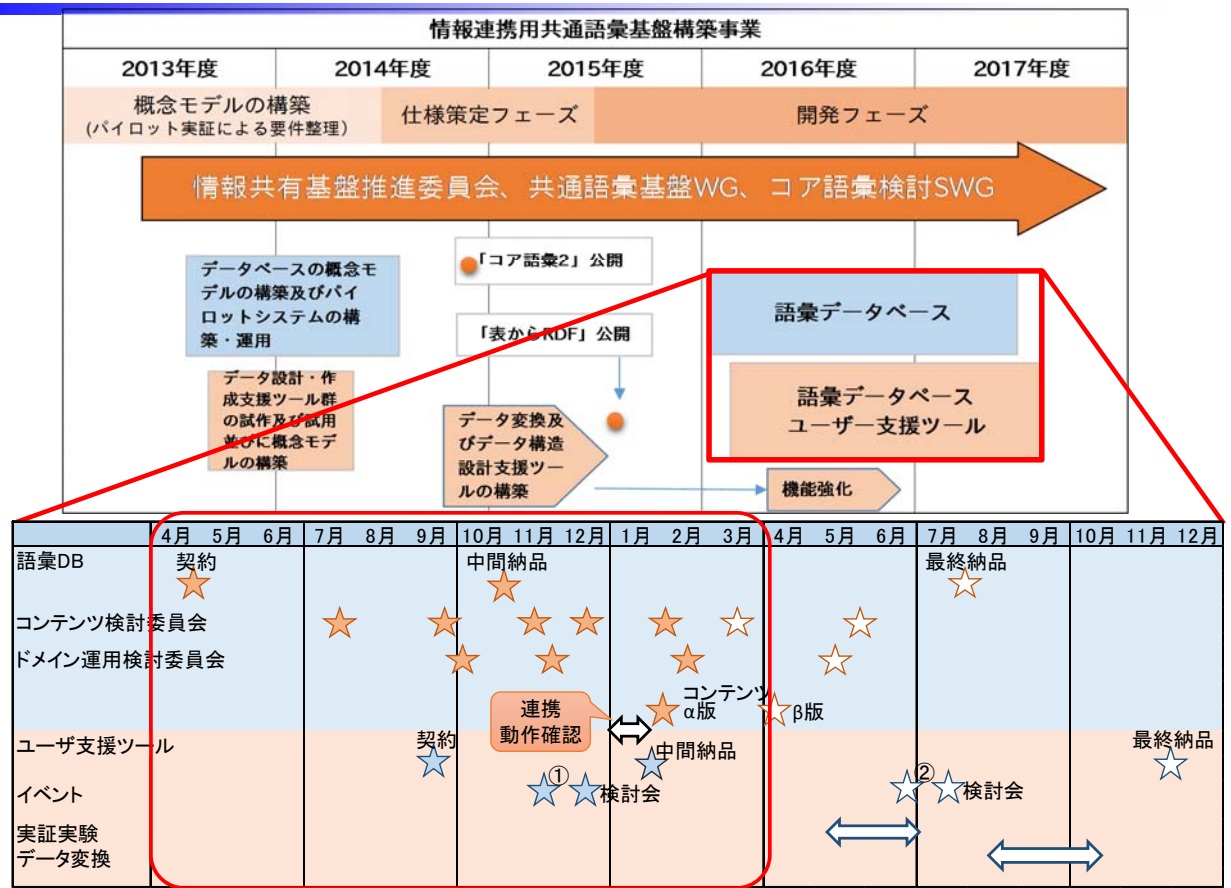


「語彙データベース」と連携して動作し、語彙や**DMD**の作成を支援したり、自治体システムから呼び出されて構造化データの作成を支援するなど、共通語彙基盤を活用するためのツール



語彙作成支援ツール	組織、ドメイン等で使用している言葉を整理し、階層をもつ語彙を作成する作業を支援するツール
コード・コードリスト作成支援ツール	業務において使用しているコードからIMJ形式のコード及びコードリストの作成を支援するツール
DMD作成支援ツール	データの項目一覧を元に、DMDの新規作成や既存DMDの編集を支援するツール
データ形式変換ツール	表形式のデータを、対応するDMDを使って共通語彙基盤によって表現される構造化されたデータへ変換するツール
DMD検証ツール	DMD内の各種ファイルがDMD仕様の要件を満たしているかどうか及びIMJ用語がIMJのルールに従って利用されているかどうかを検証するツール
データ検証ツール	DMDに記述されたデータ構造や値制限に適合しているかどうかを検証するツール
共通語彙基盤ライブラリ	上記のツールが共通で用いる機能やデータを利用するアプリケーションの開発を容易にする機能を提供するライブラリ
共通語彙基盤利用登録及びログ取得ツール	共通語彙基盤の利用を登録し、共通語彙基盤ロゴを取得するためのツール

## データベース、ツールの開発状況



## 仕様の策定

- コア語彙の検討と公開
- DMD仕様の策定と公開
- 構造化項目名記法の策定と公開
- IMI語彙の定義記法を策定



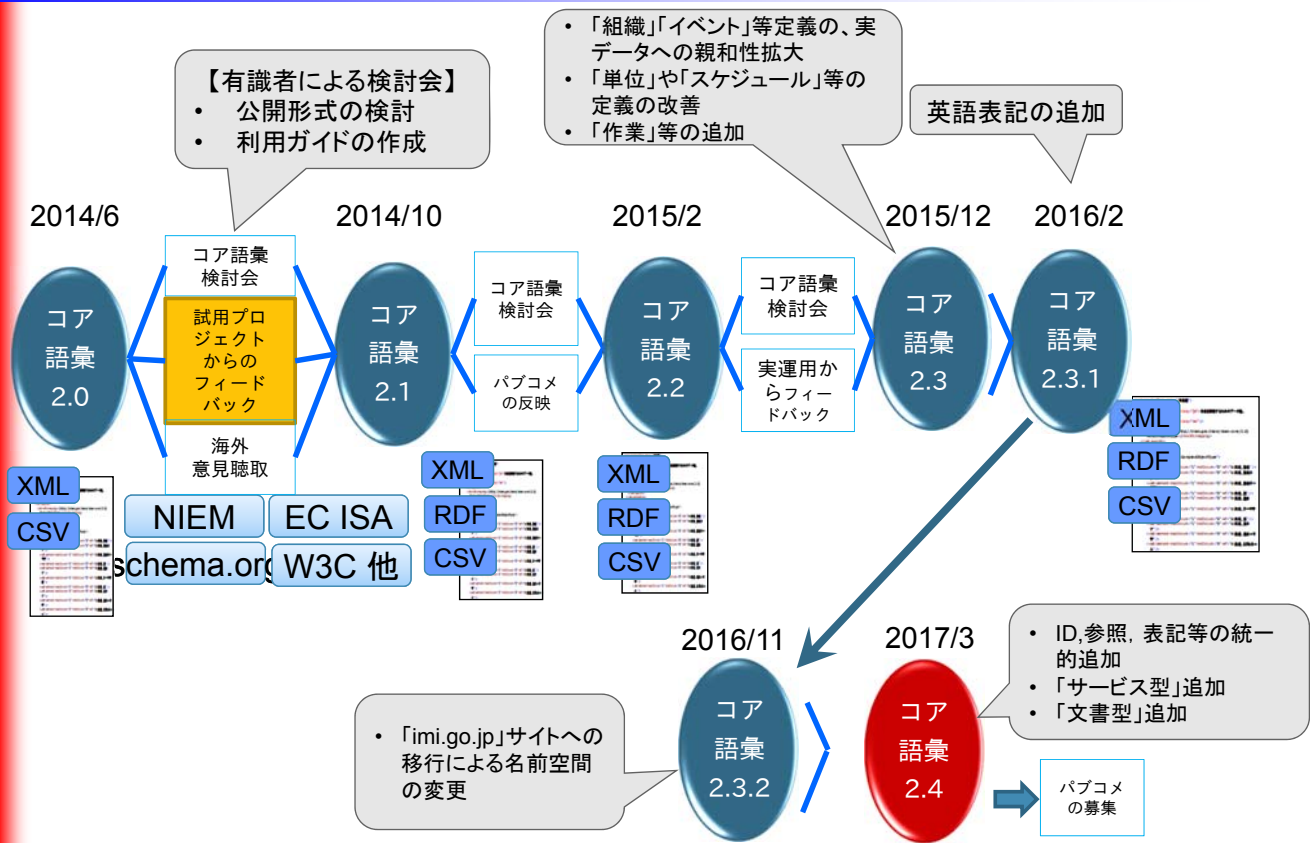
9

## コア語彙SWG実施状況

1	2016/04/15	運用	ロゴプログラム、<imi.go.jp>、6月実施イベントなどについて
2	2016/05/18	運用	海外連携(SEMIC参加)、ロゴプログラム、6月実施イベントなどについて
3	2016/06/17	運用	語彙DBと語彙ツールの事業進捗状況について
4	2016/07/15	運用	「imi.go.jp」について、語彙DBと語彙ツールの事業進捗状況について
5	2016/08/18	運用	初期段階でのドメイン語彙運用、「imi.go.jp」取得状況について
6	2016/09/14	運用	初期段階でのドメイン語彙運用、「imi.go.jp」取得状況について
7	2016/12/05	運用	パートナープログラムの検討状況、運用ルールについて
8	2017/01/10	運用	パートナープログラムの検討状況、運用ルールについて
9	2017/02/17	運用	パートナープログラムの検討状況、ドメイン語彙プロセスの検討について
1	2016/04/22	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、文字セットの制限について
2	2016/05/27	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、文字セットの制限について
3	2016/06/10	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、コア語彙 2.4に向けて、日本語シリアライズについて
4	2016/06/24	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、コア語彙 2.4に向けて、日本語シリアライズについて
5	2016/07/08	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、コア語彙 2.4に向けて、日本語シリアライズについて
6	2016/07/22	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、コア語彙 2.4に向けて、日本語シリアライズについて
7	2016/08/12	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、コア語彙 2.4に向けて、日本語シリアライズについて
8	2016/08/26	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、コア語彙 2.4に向けての検討
9	2016/09/09	技術	共通語彙基盤ドキュメント整備、日本語シリアライズについて
10	2016/09/21	技術	コア語彙 2.4に向けて、IMI構造化項目名(日本語シリアライズ)について
11	2016/10/07	技術	コア語彙 2.4に向けて、IMI構造化項目名について
12	2016/10/28	技術	コア語彙 2.4に向けて、IMI構造化項目名について
13	2016/11/14	技術	imi.go.jp 公開に向けての検討
14	2016/11/25	技術	コア語彙 2.4に向けての技術検討
15	2016/12/02	技術	DMD3.0仕様の調整、コア語彙 2.4に向けての技術検討について
16	2016/12/16	技術	DMD3.0仕様のパブリックコメント回答について
17	2017/01/13	技術	コア語彙2.4の技術検討、IMI 構造化項目名記法 パブリックコメント回答について
18	2017/01/27	技術	DMD3.0仕様のパブリックコメント回答、XBRLとコア語彙の対応表 確認について
19	2017/02/10	技術	コア語彙 2.4に向けて、DMD3.0仕様、コア語彙のマスター表現について
1	2016/09/20	XBRL	DMDの説明
2	2016/10/24	XBRL	DMDをXBRLで作成したものを確認し議論
3	2016/12/06	XBRL	EDINETで語彙の管理がどのようにされているか
4	2017/02/06	XBRL	財務報告書の表紙レベルとハイライト情報をIMI XMLで作成試行
1	2017/02/10	統計センター	統計LODとIMIとの共通化、整合性構築、相互リンクについて
1	2016/09/26	ドキュメント	コア語彙ドキュメント制作キックオフ
2	2016/10/24	ドキュメント	コア語彙ドキュメント
3	2016/12/07	ドキュメント	年末、年度末に向けたドキュメント整備について
4	2017/01/12	ドキュメント	詳細版ドキュメントについて検討
5	2017/01/30	ドキュメント	詳細版ドキュメントについて検討

2016/4/1～2017/2/17  
実施回数：38回

10



## コア語彙2.4の公開（2017年3月）

### ■ さらなる利便性の向上と、適用範囲の拡大

行政現場からの意見に基づき、利便性の向上と適用範囲の拡大を図った。

- 全ての具体的な物や事象を表すクラス用語に、ID、参照、表記、画像に追加を追加して、これらのプロパティがどのクラス用語でも統一的に利用できるようにした。
- Webサイト、URLなどに分かれていた参照に関するプロパティを「参照」に統合。
- サービス型を追加
- 文書型を追加

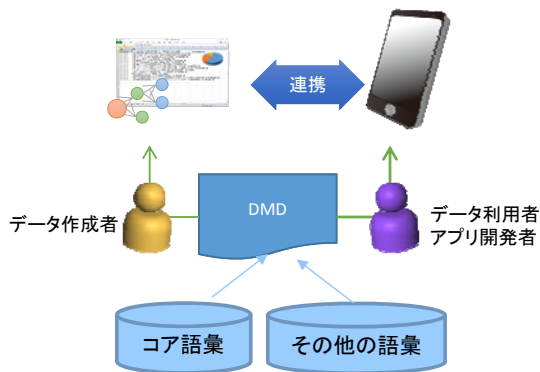
### ■ コア語彙2.3に対して上位互換を維持

- 厳密には互換でない例外1つを除く

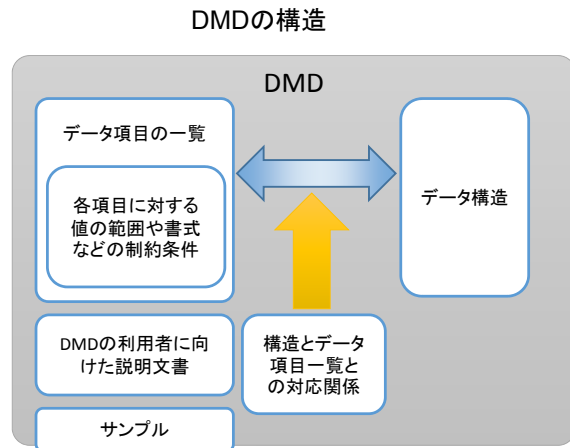
# DMD仕様の策定と公開

DMD (Data Model Description / Descriptor)

- データ交換を行う当事者間で共有するデータモデルの記述方式を決め、公開
  - 参照するスキーマや項目の値の制限、項目の内容を説明したドキュメントなど、データ項目を共有するために必要な情報をひとまとめにしたパッケージ。
  - 機械向けの情報と人間向けの情報の双方を持つ
- 2016年10月3日 DMD仕様 Ver 2.0公開
  - 語彙DBおよび、語彙DBユーザー支援ツールに仕様として添付したものを一般公開
- 2016年11月18日 「DMD仕様 v3.0」ワーキングドラフトを公開
  - 今後の検討に向け意見募集を実施



DMD(データモデル記述様式)を媒介とすることで、データの作成や連携が容易になる。



# 構造化項目名記法の策定と公開

語彙の階層構造をわかりやすく表現するための記法を策定し、公開  
<<http://imi.go.jp/goi/j-serialize.html>>

例1 人>氏名>姓, 人>氏名>名

例2 人>氏名【本名】>姓, 人>氏名【本名】>名, 人>氏名【ペンネーム】>性名

2016年09月06日  
意見募集を実施。

2016年11月18日  
ご意見を反映・検討し、「構造化項目名記法 Ver1.0」ワーキングドラフト外部リンクとして公開。再度、意見募集を実施。

2017年3月  
ご意見を反映・検討を行い、更新版を公開予定。

**構造化項目名記法**

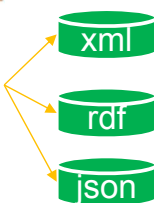
1. 概要  
構造化項目名記法は、階層構造をもつデータの位置を文字列によって表現するための仕様です。構造化項目名記法を利用することで、階層構造をもつデータを表形式のデータとして表現することができるようになるため、階層構造をもつデータの表計算ソフトウェアによる編集や、表計算ソフトウェアなどで作成されたデータから階層化されたデータへの効率的な変換ができるようになります。
2. 構造化項目名記法の基本  
日本語シリアライズの基本構造は、クラス用語>プロパティ用語>プロパティ用語... のように「>」又は「>」で区切って一つのクラス用語と任意の数のプロパティ用語を並べたものになっています。非常に簡単な例を次に示します。

例1

人>氏名>姓, 人>氏名>名

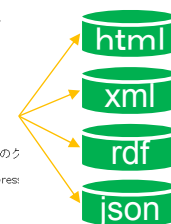
図1: 人の氏名の階層構造

表による定義からxmlなどを生成



新しい記法を原本とし、xml等を生成

```
* @description,en IMI Core Vocabulary
* @creator METI
* @creator IPA
* @publisher IPA
* @version 2.4.0
* @license
*/
vocabulary ict:
/*****
* @description 人の情報を表現するためのク
* @name,en Person
* @description,en A class term to expres
*/
class ict:人型 [@ic:実体型];
```



- 語彙そのものをフォーマルに表現する記述方法の確立
  - IMI語彙の表形式による定義を廃止(従来、表形式定義からXML, RDF等の表現をここから生成していた)
  - 代わりに、同等の情報をフォーマルなシンタックスに基づく記法で記述
- 構造化項目名を元にした表記を採用。
  - 用語の定義をテキストで記述する記法
  - 構造化項目名の記法(構造的記述方法)に制約と定義の記述方法を追加
- メリット
  - 語彙定義の検証など、コンピューターによる処理が容易になる
  - 語彙とDMDの連続性が向上

## 情報公開

- 手引き書類の整備と公開
- 「公開ドラフト」の公開
- DMDの公開







- ◆ IMI共通語彙基盤の背景
- ◆ 共通語彙基盤を使う
- ◆ 語彙について
- ◆ ID体系とコードリスト
- ◆ DMD(Data Model Description)について

名称	公開日	更新日	最新バージョン番号	説明
<a href="#">PD5474(観光施設に関する語彙の検討)</a>	2017年2月14日	2017年2月14日	-	観光施設向けの用語の検討状況を表形式にまとめたものです。
<a href="#">PD7706(イベントに関する語彙の検討)</a>	2017年2月14日	2017年2月14日	-	イベントに関する用語の検討状況を表形式にまとめたものです。
<a href="#">PD2342(法人情報に関する語彙)</a>	2017年2月13日	2017年2月13日	1.0.0	法人の基本情報や活動情報を交換するための語彙です。
<a href="#">PD1462(子育て関連施設に関する語彙の検討)</a>	2017年2月13日	2017年2月13日	-	子育て施設向けの用語の検討状況を表形式にまとめたものです。

## 11種のDMDをサンプルとして公開

- 法人基本情報
- 法人活動情報
- 施設
- 避難施設
- 設備
- 医療機関
- 氏名
- イベント
- 住所
- 組織
- 地物



The screenshot shows the IMI website interface with a navigation bar and a list of DMD entries. The entries include:

- 法人基本情報 DMD@ja**: 公開状態: 公開, 作成者: 共通語彙基盤 コア語彙検討サブワーキンググループ@ja, 更新日: 2017/02/13. 説明: 本DMDは、「法人インフォメーション (http://hojin-info.go.jp)」が使用している語彙の基になった語彙である、PD2342(法人情報に関する語彙)(http://imi.go.jp/ns/pd/2342/1)を用いて法人基本情報を作成するためのものです。法人インフォメーションで公開されているデータとは異なる名前空間の語彙を用いていることにご注意ください。@ja
- 法人活動情報 DMD@ja**: 公開状態: 公開, 作成者: 共通語彙基盤 コア語彙検討サブワーキンググループ@ja, 更新日: 2017/02/13. 説明: 本DMDは、「法人インフォメーション (http://hojin-info.go.jp)」が使用している語彙の基になった語彙である、PD2342(法人情報に関する語彙)(http://imi.go.jp/ns/pd/2342/1)を用いて法人活動情報を作成するためのものです。法人インフォメーションで公開されているデータとは異なる名前空間の語彙を用いていることにご注意ください。@ja
- 施設 DMD@ja**: 公開状態: 公開, 作成者: 独立行政法人情報処理推進機構@ja, 更新日: 2016/09/01. 説明: 施設とは、特定目的のための建物等である。部屋等、特定目的を持つ建物内のエリアを示す場合もある。日常生活や業務の中で、行政機関、商業施設等、施設の記述が求められることが多い。しかし、目的によって施設の記述方法が様々であるために、複数の地図上のデータを組み合わせる必要が生じることが多く、観光、防災情報等の基本的な情報の広域での交換などが十分にできていない。そこで、施設情報を交換する際の共通の交換方法が必要となる。施設は、特定地点に設置されているものなので、地物情報の情報交換パッケージを拡張して整備している。また、施設は建物情報を持つ場合もあり、その場合には建物情報も拡張できる等、様々な情報交換パッケージの組み合わせで複合的な施設も表現することが可能である@ja
- 避難施設 DMD@ja**: 公開状態: 公開, 作成者: 独立行政法人情報処理推進機構@ja, 更新日: 2016/09/01. 説明: 避難施設とは、災害等の緊急時に避難するための施設等である。避難所、避難場所などがある。避難施設は、学校等の一般施設を災害時に活用する機会が多い。そのため、一般の施設情報を拡張して避難所情報を整理することで、住所等の基礎的情報を重複管理することなく情報を管理することが求められる。また、避難は行政区域を超えて広域で行われることも多い。更に避難所の状況を共有するための報告情報等のデータ構造の整理も求められている。そこで、避難施設情報を交換する際の共通の交換方法が必要となる。施設は、特定地点に設置されているものなので、地物情報のデータモデル記述を拡張して整備している。また、施設は建物情報を持つ場合もあり、その場合には建物情報も拡張できる等、様々なデータモデル記述データモデル記述の組み合わせで複合的な施設も表現することが可能である。@ja
- 設備 DMD@ja**: 公開状態: 公開, 作成者: 独立行政法人情報処理推進機構@ja, 更新日: 2016/09/01.

## 体制の構築

- imi.go.jp サイト
- IMI パートナー制度



## <imi.go.jp>

- 情報連携に不可欠な「基本情報」を提供するサイト
  - 共通語彙基盤と文字情報基盤の情報を公開



# IMIパートナー制度の立ち上げ

- 「IMIパートナー協定」のポイント
  - 閣議決定に基づき、相互運用性の高い用語の開発を行うという目的意識の共有
  - 「IMIパートナー」の名称、IMIロゴの利用に係る合意
- 「連携」のポイント
  - IMIパートナーの試作した語彙等を、コア語彙SWGでレビューし、「公開ドラフト」としてIMIのサイトから公開。
  - 「公開ドラフト」は、活用しつつ改良を重ねる。
  - IPAとパートナーで、協力して「公開ドラフト」の改良に努める。
- 「ドメイン語彙」への移行
  - (将来)公開ドラフトを整理統合し、管理責任を担う組織を決定し、「ドメイン語彙」としての自立的運用を図る。

ホーム > 共通語彙基盤 > コミュニティ > IMIパートナー

## IMIパートナー

語彙の整備等を行う皆様と、相互運用性拡大などの目的を共有するIMIパートナーとしてお互いに協力して成果の展開を図り、IMI共通語彙基盤の一層の普及・充実と相互運用性の拡大を図るとともに、広く社会全般の一層の繁栄と発展につなげていくことを目指しています。

## IMIパートナー一覧

2017年2月現在のIMIパートナーです(五十音順)。

株式会社アスコエパートナーズ



一般社団法人XBRL Japan



一般社団法人オープン・コーポレイ  
イツ・ジャパン



公益財団法人 九州ヒューマンメ  
ディア創造センター



Code for Tokyo



ビッグデータ&オープンデータ・  
イニシアティブ九州



一般社団法人ユニバーサルメニュ  
ー普及協会



▼ 共通語彙基盤 ▼

共通語彙基盤について

> 共通語彙

> DMD

> DMD Editor

共通語彙基盤コミュニティ

コンテンツ一覧

# 普及・啓発

- セミナー
- 対外関係



- 活用が広がる「共通語彙基盤 (IMI)」
  - 2016年6月3日(金) 東京グランドホテル (芝公園)
  - メインセッション 共通語彙基盤IMIの概要や自治体での活用事例  
110名参加
  - 技術セッション IMIを利用したデータの作成方法についてデモンストレーション  
50名参加

講演資料と講演映像

<http://goikiban.ipa.go.jp/node1212>



- オープンデータ最前線 ～自治体データ共有と共通語彙基盤の取組みについて～
    - 2017年2月22日 (水) ITビジネスプラザ武蔵 (金沢市武蔵町14-31)
    - 一般社団法人コード・フォー・カナザワとIPAの共催
    - IMI共通語彙基盤事業の説明とワークショップ
    - 定員50名
- <https://cfk.connpass.com/event/49523/>

## データ活用にかかる「アイディアソン」(11月27日実施)



対象オープンデータの潜在的利用者を集め、データの種類や構造、その活用法等についての意見やアイデアを収集。

合計	38名
自治体	6名
研究機関	4名
一般企業	28名





SEMIC会議での講演、パネル（2016年5月）



2015年SEMIC会議でのキーノート講演

## データマネジメント2016

～データ駆動こそがビジネスを創る～

### 2016年3月11日(金)

目黒雅叙園(東京都)

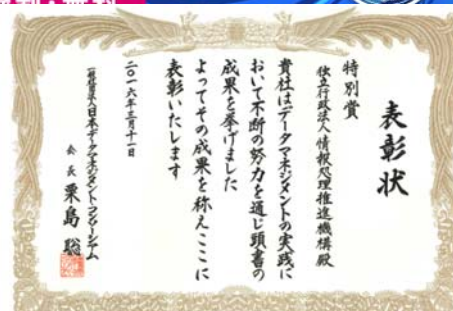
主催：一般社団法人 日本データマネジメント・コンソーシアム

事前登録制・無料

C-3

情報の価値を高める「共通語彙基盤 (IMI)」、  
その必然性を明かす

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)  
技術本部 国際標準推進センター  
参与/国際標準推進センター長  
田代 秀一 氏



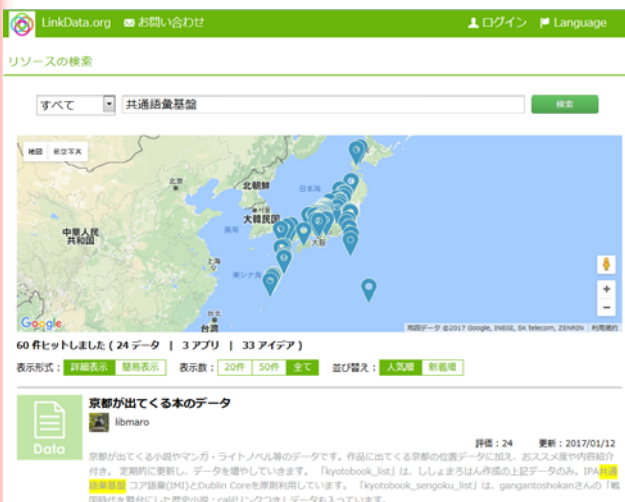
「世界最先端IT国家創造宣言」という安倍政権の閣議決定の下、政府や自治体を持つ公共データを再利用性の高い「オープンデータ」として提供する取り組みが始まっています。しかし、それを生かすには前提条件があります。データの構造や項目名などを定義したテンプレートをあらかじめ用意し、共有することにより、効率的で誤りのないデータ交換を可能にする「共通語彙基盤 (IMI)」の利用がその1つです。単に語彙を共通化するだけでなく、IMIを使えばデータ構造を設計する手間やコストを削減でき、活用のためのアプリ開発も容易になります。昨年2月の公開以来、経済産業省が近く公開する「法人情報ポータル」や、いくつかの自治体で活用が始まっていますが、新しいものだけに十分に認知されているとは言えません。そこで本講演では、共通語彙基盤 (IMI)の仕組み、活用の実例、海外での取り組み、国際協力の状況などについて紹介します。IMIを活用し、情報の整理、共有、公開を効率的で価値あるものにしてゆきましょう。

# 活用状況

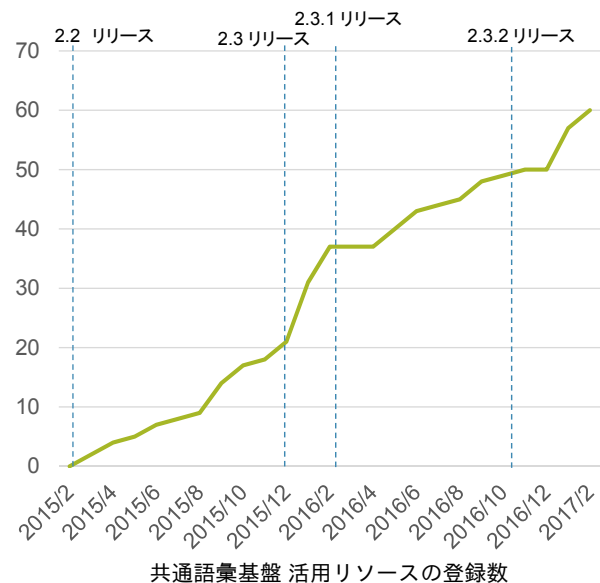


## LinkData.org にみる 共通語彙基盤の活用状況

LinkData.org (オープンデータの作成・公開を行うサイト)では、60を超える共通語彙基盤を活用したリソース（自治体によるオープンデータ、オープンデータを活用したアプリケーションなど）が登録されている。



LinkData.org



## 活用状況

法人インフォメーションでは、データの相互運用性向上のために「IMI共通語彙基盤」が活用されています。

## 法人インフォメーション

URL: <http://hojin-info.go.jp/>

運営: 経済産業省

主な内容: 国が保有する国内約400万社の企業情報



# 埼玉県

IMI共通語彙基盤の枠組みとコア語彙を活用した、県と市町村の共通形式(共通フォーマット)によるオープンデータを公開。



### 共通フォーマット策定の経緯

オープンデータの活用が進まない大きな原因の一つとして、同じ種類や内容のデータでもフォーマットが不統一であることが挙げられます。団体毎、データ毎にフォーマットが異なっているのが実態です。そこで、埼玉県では、県と県内全市町村で構成する「電子自治体推進会議」に「埼玉県オープンデータワーキンググループ」を設置し、より活用しやすいオープンデータを公開するための協議・検討を行い、共通フォーマットを策定しました。策定に当たっては、**経済産業省及び独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の協力の下、IMI（共通語彙基盤）**の枠組みと基本語彙を活用しました。  
※埼玉県オープンデータポータルサイトお知らせより抜粋



- 参照するスキーマのひとつにIMIのコア語彙を採用
- 語彙の改良に関し、連携・協力体制を構築

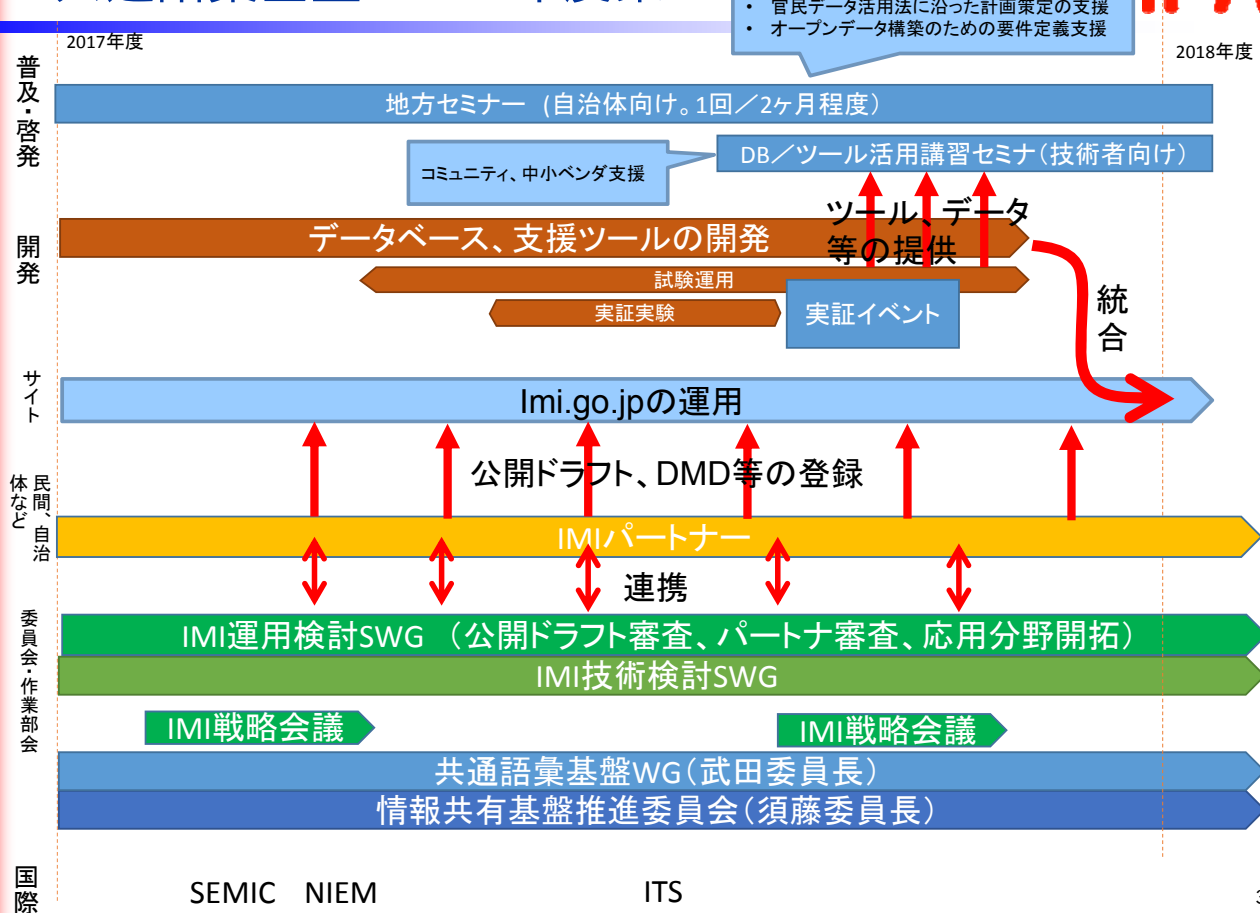


## 共通語彙基盤 2017年度実施方針



- 自治体での実証実験
  - 森町／会津若松市／埼玉県／横浜市金沢区／静岡市
  - 道路情報、イベント、観光、子育て支援情報等へ適用
  - 構築中の語彙データベース、ツールを活用
- 語彙データベース、ツールの公開
- IMIパートナー、官公庁との連携強化
  - 「公開ドラフト」の公開を推進
- 普及活動（セミナー、イベント実施）
  - 自治体向け
  - 技術者向け

共通語彙基盤2017年度案

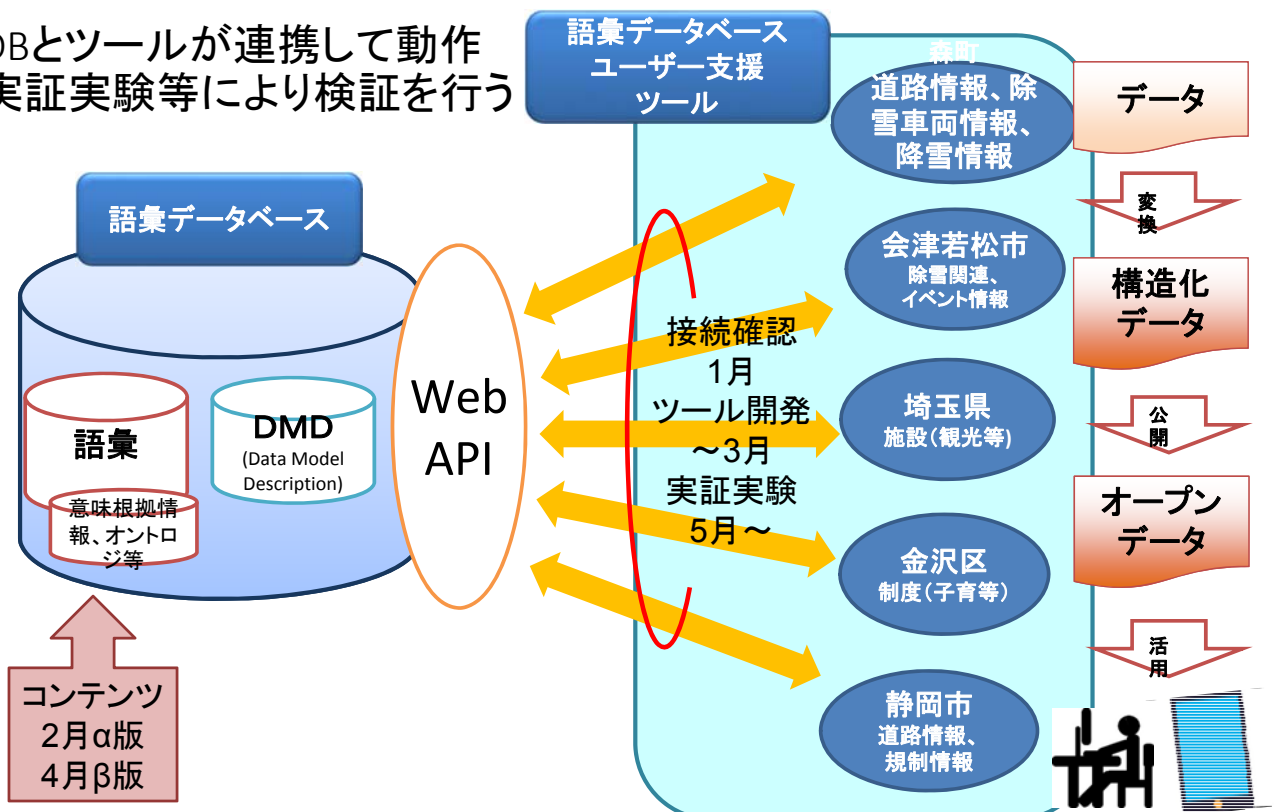


# 実証実験の実施 DB,ツールの公開



## 語彙データベース／ツール実証実験

DBとツールが連携して動作  
実証実験等により検証を行う



コンテンツ  
2月α版  
4月β版

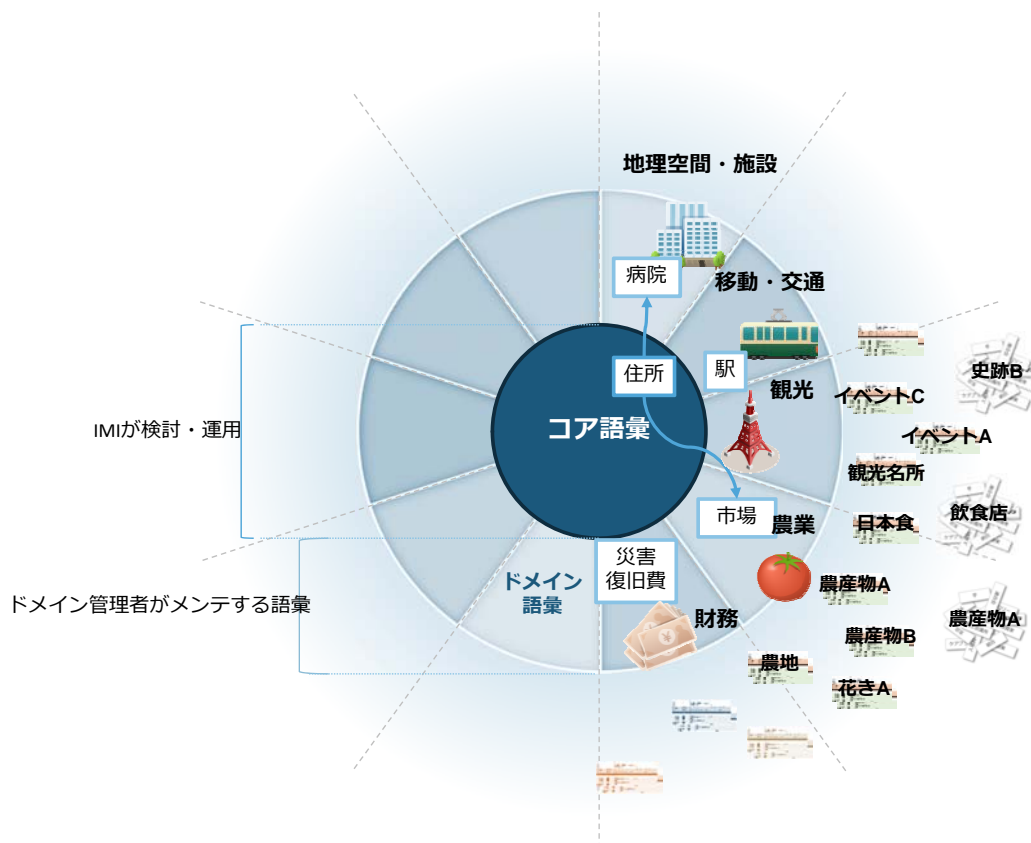
No	検証項目	使用するツール	検証概要	備考
1	用語(語彙)の作成	語彙作成支援ツール	対象データ(CSVまたは2次元表形式データ)の属性名をドメイン語彙として語彙データベースへ登録する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面で一から作成する手順</li> <li>語彙フォーム(Excel)をアップロードして登録する手順</li> </ul>
2	コード値の作成	コード・コードリスト作成支援ツール	対象データの属性値について、自由入力ではない値(性別のような選択型の値)をコード値として語彙データベースへ登録する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面で一から作成する手順</li> <li>コードIDフォーム(Excel)をアップロードして登録する手順</li> </ul>
3	DMDの作成	DMD作成支援ツール DMD検証ツール	対象データをアップロードし、候補となるDMD(一致、類似するもの)を確認する。 一致、類似するものがない場合は新規でデータ構造を作成し、DMDとして語彙データベースへ登録する。候補がある場合は必要な箇所を編集する形でDMDを作成し語彙データベースへ登録する。 登録したDMDを検証ツールを用いて確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面で一から作成する手順</li> <li>語彙データベースに登録されているDMDを参照する手順</li> <li>ローカルのDMDをアップロードする手順</li> </ul>
4	データの変換	データ形式変換ツール データ検証ツール	対象データをアップロードしてデータの属性名とDMDの項目をマッピングし、XMLまたは、RDFの各シリアライズ形式(Turtle、RDF/XML、JSON-LD)のいずれかを選択し、変換されたデータをダウンロードする。 変換したデータを検証ツール(UI+API)を用いて確認する。	<p>データについては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画面で変換する方法</li> <li>APIで変換する方法</li> </ul> <p>DMDについては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語彙データベースに登録されているDMDを参照する方法</li> <li>ローカルのDMDをアップロードする方法</li> </ul>

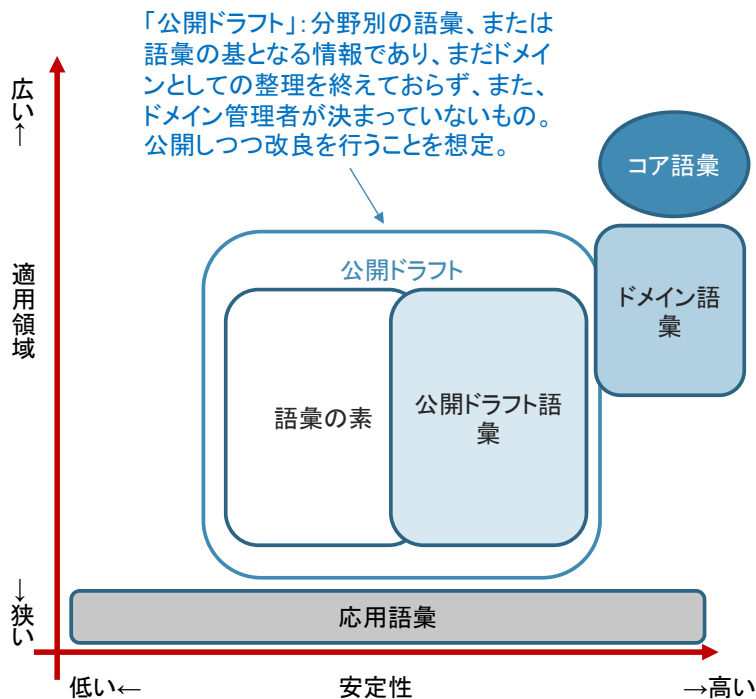
対象データ	
「linkdata.org」を用いて公開されている自治体(40自治体以上)のオープンデータ。 データセット数120個以上(40自治体の3倍以上)。	開発したツールを用い、IMIに沿ったRDFデータとDMDを作成し公開
「子育てタウン」Webを用いてHTMLで公開されている自治体(40自治体以上)の構造化データ	開発したツールを用い、IMIに沿ったRDFデータとDMDを作成し公開
経済産業省版法人ポータル(β版)	開発したツールを用い、DMD、ドメイン語彙を試作して公開
子供霞ヶ関見学デー(2017年実施分)	開発したツールを用い、DMD、ドメイン語彙、RDFデータを試作して公開。データビジュアライズツールも試作しデモ。
農業ITシステムで用いる農作業の名称に関する個別ガイドライン(本格運用版)(案)	公開された農作業オントロジーを対象とし、開発したツールを用いてDMD、ドメイン語彙を試作して公開。データビジュアライズツールも試作しデモ。
ハローワークの求人情報および求人詳細情報	開発したツールを用い、DMD、ドメイン語彙、RDFデータを試作して公開
ハローワークで公開されている求人情報で用いられている日本標準産業分類	産業分類について、開発したツールを用いてコードリストを試作し公開。統計LOD情報とマッシュアップなどもデモ。

# 公開ドラフト等の公開 IMIパートナーとの関係



# コア語彙とドメイン語彙

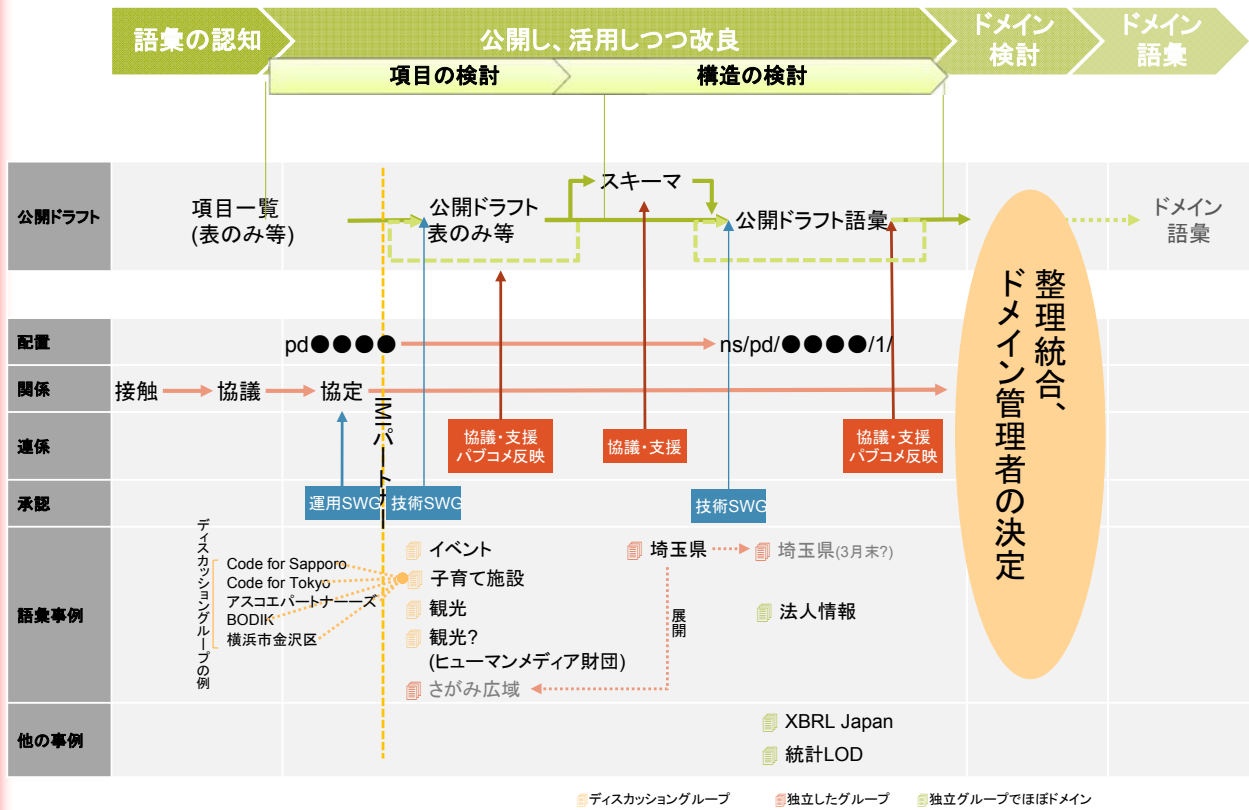




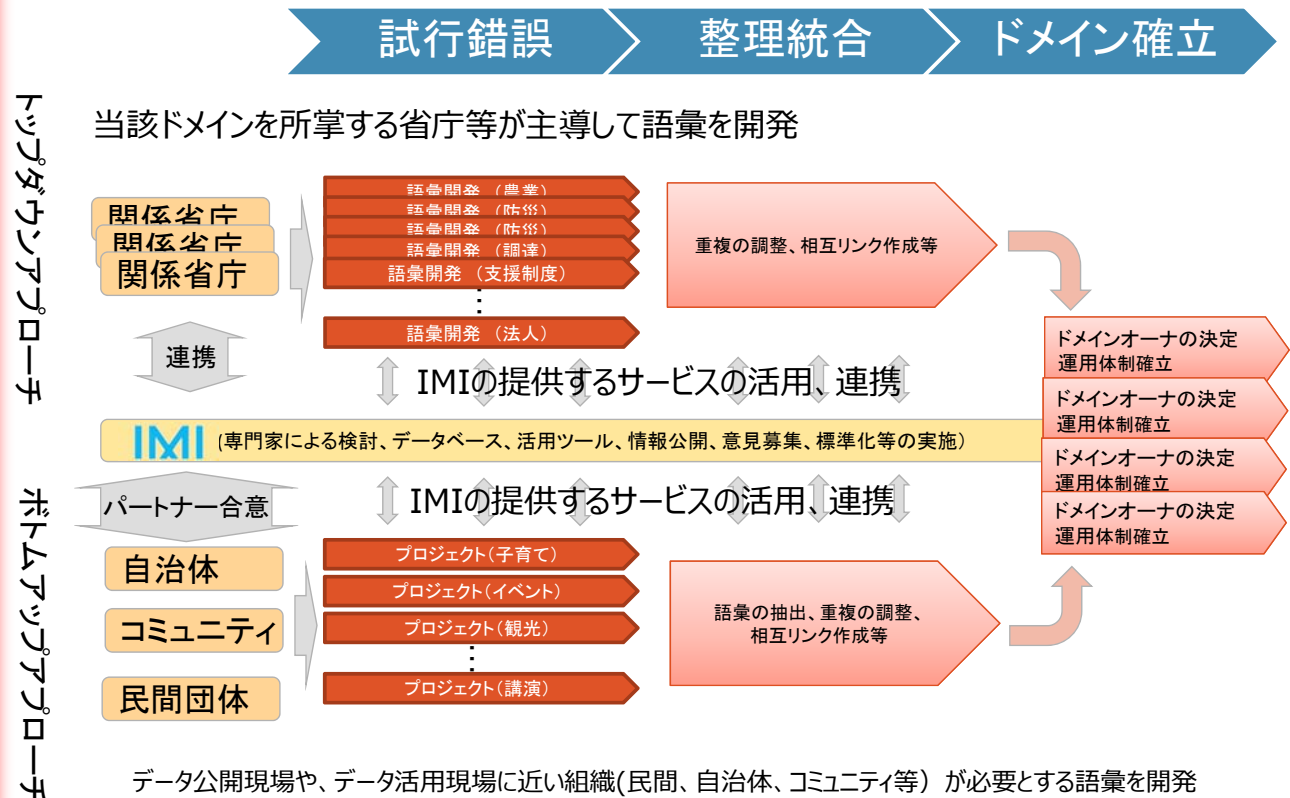
- コア語彙
  - 広い業務分野で共通に用いられる基本的語彙
- ドメイン語彙
  - 分野内で共通に用いられる語彙
  - 分野毎に管理者を設定
- 公開ドラフト
  - 活用しつつ、改良を行う語彙
  - スキーマを含まない、「語彙の素」も含む
  - ドメイン語彙への移行を意図（整理・統合と管理者の決定が必要）
- 応用語彙
  - データ作成者がその必要に応じて定義する語彙

## 語彙の種類と作成者・管理者等

種類	作成者	公開プロセス	メンテナンス	公開場所 (imi.go.jp/)
コア語彙	コア語彙SWG	コア語彙SWGが判断	コア語彙SWG	/ns/core/<version>
ドメイン語彙 (将来公開)	各ドメインの 担当組織	各ドメインの管理者が主体。 コア語彙SWGが必要に応じてレビュー	ドメイン管理者が主体。 コア語彙SWGは必要に応じてレビュー	/ns/domain/<ドメイン名>/<version>
公開ドラフト	コントリビュータ(IMIパートナー、自治体、省庁等)	コア語彙SWGがレビューし、公開可否を判断	コントリビュータとコア語彙SWGが協議してメンテ	/pd/<pd番号> /ns/pd/<pd番号>/<version>
応用語彙	必要とする人	作成者の任意	作成者の任意	-



## ドメイン語彙構築プロセスのスイメージ



- 要件
  - 主体的に「語彙」の開発を行っている組織／行おうとしている組織
  - 公開ドラフトの公開及びメンテナンスについて、コア語彙SWGとの協議を行こと
  - 適用領域が共通語彙基盤の趣旨に沿っている
  - 営利、非営利を問わないが、語彙等成果物はCC0で公開すること
- 選定のプロセス
  - パートナ協定締結希望者とコア語彙SWG（技術、運用）が協議し、上記要件を確認
  - コア語彙SWG（運用）は、上記要件の他、対応キャパシティが十分であるかなどの視点を含め総合的に判断
  - 公開ドラフトに関し、他のパートナーを交えた協議を依頼する可能性についても説明
  - 協議の結果、希望者とコア語彙SWG（技術、運用）の双方が適当と判断したら、協定書を締結